

貼る、を知る。

経皮薬物送達システム(TDDS)

Transdermal Drug Delivery System

ポリファーマシーにおける貼付剤の可能性

監修:大谷道輝 先生 杏雲堂病院診療技術部長・薬剤科長



# ポリファーマシーにおける貼付剤の可能性

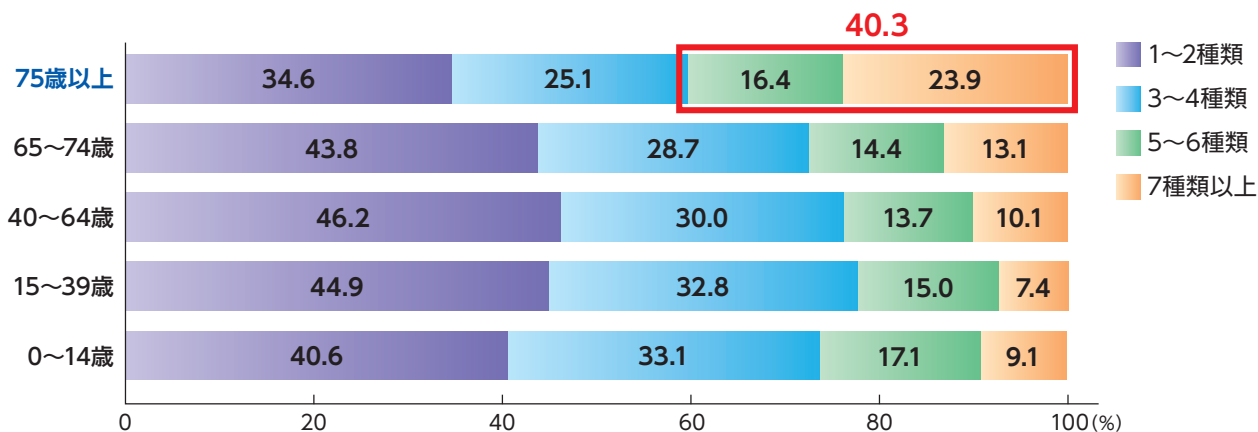
## ポリファーマシーは、服薬する薬剤数が多いだけが問題ではない

ポリファーマシーは、薬の増加に伴い薬物有害事象のリスクが増加し、服薬過誤、アドヒアランス低下などの問題につながる状態を指します。ポリファーマシーの改善は、一律の剤数/種類数のみに着目するのではなく、安全性の確保等からみた処方内容の適正化が求められます。

厚生労働省: 高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)について(平成30年5月29日医政安発0529第1号/薬生安発0529第1号)より改変

## 処方薬剤数は、75歳以上の40.3%が5種類以上である

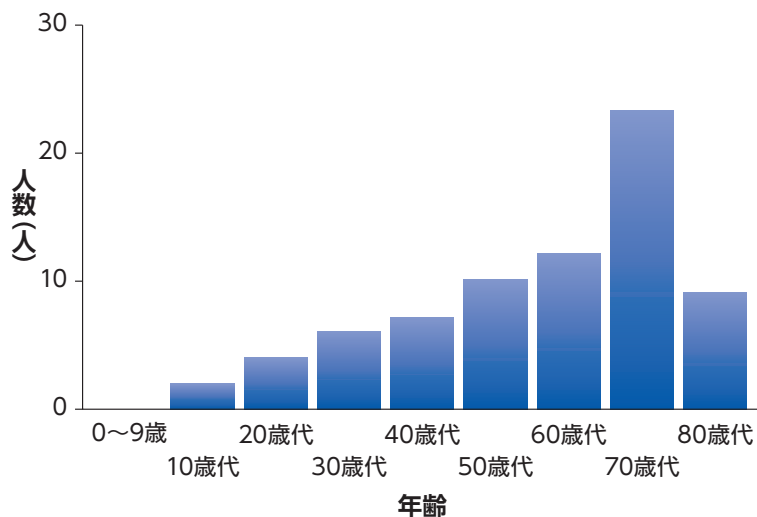
保険薬局で1か月に処方される薬剤数の割合



厚生労働省: 令和元年社会医療診療行為別統計

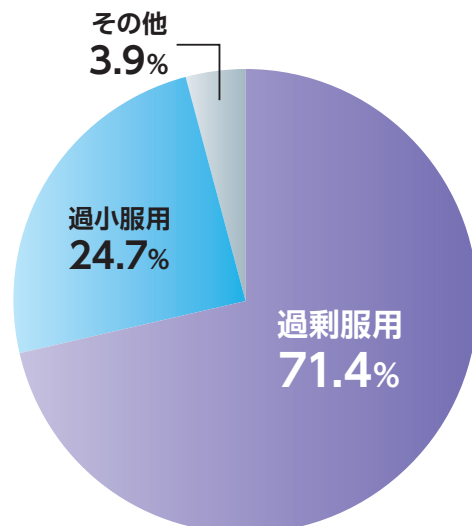
## 飲み間違いは、過剰服用に注意

自己管理薬のインシデント報告があった患者年齢分布



大谷道輝先生 提供

自己管理薬のインシデントの内訳



赤城那奈, 大谷道輝: 医療と安全 2018; 8: 5-13.より作図

## 高年齢者のアドヒアランス向上・飲み間違い防止における貼付剤の有用性

アドヒアランス不良・飲み間違いの要因	貼付剤の有用性
投与方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服薬回数や服薬剤数を減らすことができる</li> <li>・投与時期を患者の生活様式に合わせることができる</li> <li>・食事の影響を受けない</li> <li>・水なしで投与ができる</li> <li>・PTPから錠剤が取り出せない患者でも容易に貼れる</li> </ul>
加齢による記憶力や理解力低下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人のみならず家族又は介護者が視認により貼付状況の確認が容易にできる</li> </ul>
嚥下機能低下 服薬拒否	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬を飲めない場合でも投与ができる</li> <li>・内服薬の副作用で服薬が困難な場合にはその副作用が軽減できる場合がある</li> </ul>

## 貼付剤の利点と欠点

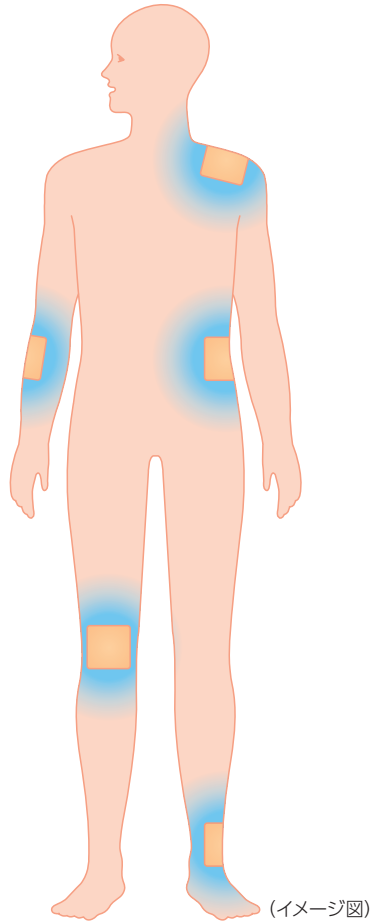
利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 肝初回通過効果を受けないため、薬物のバイオアベイラビリティを高めることができる</li> <li>● 消化器系の副作用を回避し、全身性の副作用を軽減させることができる</li> <li>● 長時間、一定した薬物血中濃度が得られる</li> <li>● 副作用発現などで投与を中止したい場合、剥がすことで投与を中止できる</li> <li>● 注射剤のような専門的手技を必要とせず、適用方法が簡便である</li> <li>● 服薬有無を視認できるため、アドヒアランスの向上につながる</li> <li>● 嚥下が困難な小児や高齢者などの患者にも投与できる</li> </ul>
欠点	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 皮膚に対する刺激性を有することがある</li> <li>● 貼付部位により吸収が異なる</li> <li>● 剥がし忘れることがある</li> </ul>

大谷道輝: スキルアップのための皮膚外用剤Q&A 改訂2版. 南山堂; 2011.を参考に作成  
塩原哲夫, 大谷道輝: 臨床に役立つ 経皮吸収型製剤を使いこなすためのQ&A. アルタ出版; 2012. p. 7.

### 貼る、を知る。POINT

- ▶ 経口剤から貼付剤へ剤形を変更すると、投与していることが視認でき、アドヒアランスを改善する可能性があります。
- ▶ 特に高齢者では、記憶力や理解力の低下が多くなることが懸念されるため、貼付剤を使用することで飲み間違いの防止に役立つことが期待できます。

# 本邦で承認されている貼付剤 (2020年11月現在)



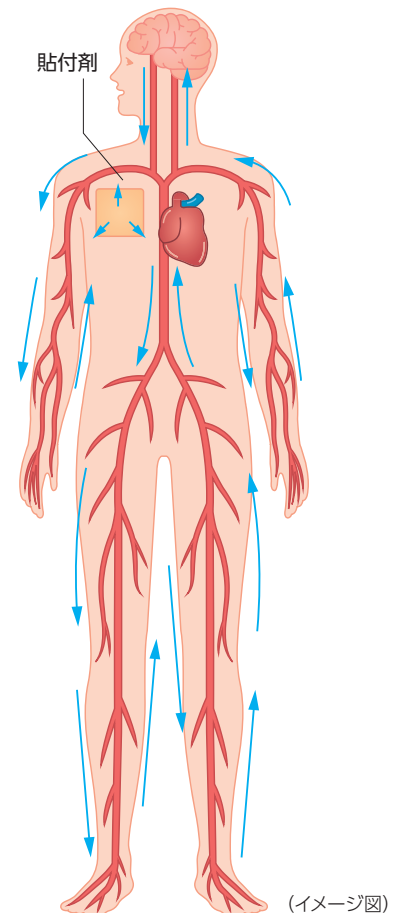
## ● 局所製剤

主な適応症	有効成分 一般名
鎮痛消炎	サリチル酸メチル等
鎮痛消炎	ケトプロフェン
鎮痛消炎	フルルビプロフェン
鎮痛消炎	インドメタシン
鎮痛消炎	フェルビナク
鎮痛消炎	サリチル酸グリコール
鎮痛消炎	ジクロフェナクナトリウム
鎮痛消炎	ロキソプロフェンナトリウム水和物
鎮痛消炎	エスフルルビプロフェン・ハッカ油
湿疹・皮膚炎群	フルドロキシコルチド
湿疹・皮膚炎群	デプロドンプロピオン酸エステル
静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	リドカイン
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	
伝染性軟属腫摘除時の疼痛緩和	
注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和	リドカイン・プロピトカイン
皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和	
外傷・熱傷及び手術創等の二次感染	フラジオマイシン硫酸塩

各薬剤の添付文書を基に作成

## ● 全身製剤

主な適応症	有効成分 一般名
狭心症	硝酸イソソルビド
狭心症	ニトログリセリン
更年期障害	エストラジオール
更年期障害	エストラジオール・酢酸ノルエチステロン
気管支拡張	ツロブテロール
禁煙補助	ニコチン
がん疼痛	フェンタニル
慢性疼痛	
がん疼痛	フェンタニルクエン酸塩
慢性疼痛	
慢性疼痛	ブプレノルフィン
アルツハイマー型認知症	リバスタグミン
パーキンソン病	ロチゴチン
レストレスレッグス症候群	
パーキンソン病	ロピニロール塩酸塩
過活動膀胱	オキシブチニン塩酸塩
本態性高血圧症	ビソプロロール
頻脈性心房細動	
アレルギー性鼻炎	エメダスチンフマル酸塩
統合失調症	ブロナンセリン



各薬剤の添付文書を基に作成